

KANAGAWA HOHYUH CLUB

神奈川放友会 Newsletter



Vol. 5 No.4 OCT. 2012
第20号

神奈川放友会

〒231-0033 横浜市中区長者町4丁目9番地
ストーク伊勢佐木1番館 501号

TEL 045 681 7573 FAX 045 681 7578

発行人 長谷川 武
発行日 2012年10月15日

巻頭言

医療の品格とは

監事 草柳伸彦

最近、品格に関する書籍をよく見かける。自分も何冊か購入した。意外と興味の湧く内容のものが多い。人間の品格、夫婦の品格、職業の品格、専門性での特別な品格、会社の品格などなど。他にも定義を構築すれば沢山出来ると考えられる。元々、品格の意味合いとは何だろう。自分なりに品格に関し考えてみることにした。

普段の生活の中で、所謂、人格・品格を形成する過程は如何様にもある。人と出会えば挨拶をし、約束を守り、仕事のルールはきちんと遵守する。規則正しい生活からスタイルを見つけ、発展させていく。幸せになっていくための基本は、多面に渡り沢山ある。学問に集中したり体を鍛えたり、読書に興味を示したり、遊んだり、恋をしたりと。このような行動行為は人格を高めるため必要であり、結果として人格、品格が形成されていくだろう。

さて、医療におけるの品格とはなんだろう・・・。
医師について考える。医師は、科学的見地、技術的習熟、人間的資質の持ち主であるという前提から常にプライドを持つように心がけている。社会から専門家としての厳しい体制のもと厚い信頼性を今まで勝ち得るものと信じられてきている。このような伝統的な絶対感が現代社会にて近年、揺らいできている。医療制度の変革が主たる要因のようだ。医療費の削減が今後どのように進められていくのか定かではないが、経営的観点からの診療行為になると、職業倫理観と相容れないものになっていく。医療体制が今後社会的に価値あるものとして生み出せることが出来るようになるには、どうすればよいのか議論が必要である。また、医師の品位、品格だけ取り上げて批判し、現状での官僚的な判断で制度規定等を構築してもなんら解決とはならないことは明白である。医療上の目標は治療と成果があり、学問的に解明し、貢献するものとされてきた経緯がある。しかし、医師の背景にはコンサルティングがあり、経営的分析が評価の対象となり監視されているような感じを受ける。医療はサービス業として、銀行や航空会社のサービスと同等な方法を取り入れ行

われている。如何なることだろう。また、患者と医師は対等な関係であるべきだ。接遇の観点からばかり追及すると医療の目的目標を見失う結果となり、挙句の果て医療の根幹である医師の信頼性の向上に基づいた方向での良い医療が進められなくなる。

次に、コメディカルについて考える。診療放射線技師に何か足りないものがないか、欠けているものは何だろうか。いつも考えさせられる。医療機関での絶対的な立場ではないが、使命感からくる職業倫理はあるが、一般的に社会から来るイメージは様々であろう。医療現場では、決められた一連の仕事をこなし、求められている専門性は完璧とは言わないが、それなりに結果を出している。しかし、何か足りないのか・・・。はっきりした答えが見つからない。

撮影業務で体験することの中で、経験があると思うが、業務分担制の話で必要以上のことをしない点である。全体としてのチーム医療感で医療行為を行っているが、あくまで分担制で行っている感覚である。現在の画像診断に関して、診断をつけるための検査、見つけるための検査の理解があり、病巣が把握できないと検査終了にはならないことが多い。時と場合によっては、追加検査を医師側に依頼するケースもある。感覚的に全体で医療行為を行っている場合では一体感があり、連携も取れ信頼感も生まれ、良い緊張感、充実感から自然に流れていると思う。しかしながら、連絡不徹底、ノー会話、内輪での囲い込み組織間に多いのだが、信頼感が欠如している状況では色々と問題が発生すると考えられる。医療事故に繋がらないとも限らない。

最後に、品格を向上させるためにどうすればよいかであるが、日頃よりきちんと、どんな場合でも挨拶が出来るように、コミュニケーションを円滑にすること、人望を厚くすること、礼儀を理解しておくこと等が挙げられると思う。

意識的に行ってほしいこと

- 1 相手中心で進める。
- 2 思いやり・いたわりの心を忘れないこと。

第二弾 発刊のご案内 と 購読キャンペーン

食 と 放射線

— 放射線と共生するための「副読本」 —

“食品の放射能汚染” と “食品照射” の実態を理解するために、「食と放射線を考える会」の放射線技師と栄養士が情熱で綴った、放射線と共生するための「副読本」



企 画 : 食と放射線を考える会 / 神奈川県放友会

編集・執筆 : 長谷川 武 / 早瀬 武雄 / 上前 忠幸

発行所 : 神奈川県放友会

発行日 : 2012年9月15日

A 4 版 : 139 頁

頒布価格 : 1,000 円 (送料は自己負担:1冊/80円)

<特 長> 次の5点と軸に編集されている

- 放射線を学ぶ
- 食品と放射線、放射能の関連を正しく知る
- 放射能のリスクを考える
- 食品のベクレル計算をカロリー計算のごとくに
- 食品の放射能汚染と食品照射を知る

[主 な 目 次]

第 1 章 放射線を知る

第 3 章 食品照射

第 5 章 食品の放射線測定

第 2 章 放射能汚染と食生活

第 4 章 放射能を防ぐ

第 6 章 「食と放射線」Q&A

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災による東電福島第一原発事故の放射能汚染は、一瞬にして健康被害を引き起こす元凶になってしまいました。空気・水・農作物・海水・魚介類は、放射能によって汚染されました。また、肉や野菜に於ける O-157 の感染も起きております。今ほど食物の安全性について、いろいろ考えさせられることはありません。今回の事故で、放射線技師も栄養士も「食と放射線の知識」が、より必要であることを痛感しています。

食と放射線 申し込み用紙		注文年月日: 年 月 日
—放射線と共生するための「副読本」—		(ご注文は FAX にてお申し込み下さい)
申込者名	届け先住所	
電話番号() () ()	〒 道府県 市 区 町 番地	
申し込み部数 () 冊	代金は[本代 1000 円/冊+送料 80 円]を「ゆうちょ銀行」口座に振り込み下さい。入金を確認後、クロネコ宅急便にてお届けいたします。	
注文 FAX : 045-681-7578	振込先 「ゆうちょ銀行 神奈川県放友会口座」にお振込下さい。	
問い合わせ	・「ゆうちょ銀行」 [口座番号] 記号 00270-6 番号 53977	
TEL : 045-681-7573	(払込取扱票: 青色用紙) ATM: 80 円 窓口: 120 円	
	〒231-0033 横浜市中区長者町 4-9-8	
	ストーク伊勢佐木 1 番館 501 号室	
	(社)神奈川県放射線技師会内 神奈川県放友会事務局	

2012.9.9 競馬観戦記

横須賀市鴨居 村松康久

浦賀発 5:54 分、金沢八景発 6:12 分、横浜から JR 東海道線で東京駅へ、そして JR 京葉線で船橋法典駅 8:12 分着。駅から競馬場へ向かう道々、暑さというか酷暑というか、9 月初旬になっても 30 度以上の日が続いて太陽が照りつける中、20 分の道のりを歩いて中山競馬場に到着。建物の中に入ると照り返しがない分強い日差しを遮ることが出来幾分涼しさを感じた。

橋口副会長が一人 200 円の入場券を 13 人分まとめて購入し、ゲートを通って指定席券売りの建物に進む。さすがにすーっと涼しい。2800 円の指定席券を得るため入場券の番号順に並んで 9 時に窓口が開くのを待つ。ここでも副会長さんがまとめて購入し各々一人ずつに指定席券が手渡され、全員 3 階の指定席につく。目の前には緑の芝生が鮮やかに優しく映る。正面のワイドスクリーンにはパドックの馬の状態、オッズ、そしてゲートからゴールまでの人馬一体の死闘の様子が映し出される。

私達の席はちょうどゴール板の前、この芝コース、ダートコースを競走馬たちは死に物狂いで駆け抜けていくと思うとわくわくする。ちなみに中山競馬場は右回りコース。まず競馬専門誌と副会長さんが前もって予習の為送ってくれた資料を座席のテーブルの上に置く。A4-10 枚の手ほどき文を開ける。それによると馬券は欲が絡むと的中しない。しかし、推理が的中すると無上の喜びに浸ることができる。まず馬の状態。パドック診断が重要である。はしゃぎまわる馬、厩務員に引っ張られていやいや歩く馬、発汗している馬、やたらちょこまか小走りの馬、あたりをきよろきよろする馬、チャカついたりする馬、体重の増減が 20K g の馬。これらは敬遠してよい。ただし、周回毎に気合いが乗ってくる馬は買いと副会長さんの手引書にある。

馬券はマークカードで必要個所をチェックする。購入最小単位は 100 円。馬券の買い方と種類は、枠連 (1 着・2 着になる馬の枠番号の組み合わせ)。馬連 (1 着と 2 着の馬番号の組み合わせ)。馬単 (1 着・2 着になる馬番号を着順通り)。単勝 (1 着になる馬)。

複勝 (3 着までに入る馬番号)。3 連単 (1 着・2 着・3 着の馬番号を順番通り)。3 連複 (1 着・2 着・3 着の馬番号の組み合わせ)。ワイド (3 着までに入る 2 頭の組み合わせを馬番号で当てる)。その他ボックス買い、応援馬券等がある。

1000 円馬券を購入すると国の懐に 250 円が入る。即ちこれが震災復興に役立つ。なる程国の為被災地の為そして大いに楽しんで協力出来る事とは知らなかった。

さっそく 1 R 10 時 15 分発走の為資料と専門誌を参考に頭をひねり、馬券購入のため発売機に向かう。手にした馬券が当たりますようにと席に着く。いよいよ戦場へ GO! GO!

ワイドスクリーン画面と実際に走っているコースを交互に目をやり、自分の買った馬を応援する。周りの観客の中にはゴール寸前、口角泡を飛ばして叫ぶ人、大声で気合いを発声する人、場内一斉に歓声上がる。喜び、肩を落とし、一喜一憂する人たち。それぞれ興奮した人間模様がある。入場者の中には、杖をついて馬券を買う老人、若いアベック、子供連れの中年のお父さん、千差万別老若男女で賑わっている。

私は 12R 全部ワイド方式で購入した。戦果は 4100 円購入して 1700 円の払い戻しがあり都合 2400 円のマイナスでしたが、率直の話大いに楽しみ不思議と爽快な気分浸った。(ちなみに昨年の 8 月大井競馬では 7 R 中 3900 円投入して、配当は 1600 円、マイナス 2300 円であった)。

そして翌朝 1 回も目が覚めずに起きられた。通常だと 2、3 回は目が覚めてトイレに立つ。これは昨日の興奮が心地よい疲れとなって、ぐっすりと眠れた為だろう。

毎日の生活に追われてストレスが貯まっていたせいなのかもしれない。

あの聖物の橋口副会長が本当の競馬の面白さ、楽しみ方を教えてくれた気がする。

橋口副会長有難う、そして参加して下さいました皆さん、有難うございました。又お会いしましょう。

神奈川放友会イベント中山競馬観戦記

副会長 橋口 邦 紘

行って来ました中山競馬場へ、総勢 13 名。当初参加申し込みはいつものように、会長他 5 名と早瀬理事の奥様も参加戴いて 6 名。ヒョットして参加して戴けるかと思い、数名にハガキによる申し込みを Newsletter と一緒に同封したところ、ナント県技師会副会長の上前さんから参加したいとの返事、(ハガキを見た瞬間、当日は雨か?) アーアリガタヤ一人増えた。後日理事会の席で、小嶋理事よりハガキでは都合で不参加と返事したが、どうか行けそうなので参加したいとの事、しかも奥様の友人を含め 6 名、全員競馬場は初めてとの事。さればと初心者向けの指南書作りに取り掛かる。8 月の半ば、長谷川会長より例の小学校正門前で渡す物が有るので会いたいとの事。チャリンコで駆けつけると、縣さんの入会申込書と 3 年間の購読料、その上会への寄付金をも戴いた。本当に有難う御座いました。更に、会長が中山競馬観戦を誘ったところ、是非参加したいとの事でまた 1 名増えた。(直近で会議が入り不参加となりました。10 月のイベントでお待ちしています) 俄然指南書作製に拍車が掛かり、2 週間前に全員に送付。当日親友の村松理事と金沢八景駅 6 時 12 分に落ち合い、いざ中山競馬場へ。



東京駅より京葉・武蔵野線に乗り込む。

早速、昨夜の検討結果を打ち合わせしているのか?

いつの間にか週間天気予報の曇りマークが消え、晴れマークに。(上前さんは晴れ男?) 案の

定オジサン二人は東京駅で、総武線ばかり気にして乗り場を間違え、通りかかった運転手さんに船橋法典行くには向こうの階段を下りるようにと諭される始末。それにしても、東京駅の広さ、複雑さ、程なく時間通りに全員集合、車窓から競馬場の大屋根がチラッと見え隠れした時は汗が噴出し、更に競馬場までの 10 数分間がきつい事、きつい事。やっと到着したと思ったら交通整理のお兄さんに、座席指定のお客さんは道を渡った向こうの建物の地下から入るよう言われ、又汗がドバー。中山競馬場へ着たら当然「ハイセイコー」の銅像の前で記念写真。



中山競馬場のパドック付近にある

ハイセイコーの銅像前で記念写真

鼻面、脚を撫で、今日のレースが事故無く終了する事と、出来れば少し儲かりますようにとお願いした。3 階の指定席は 5.6 インチのモニター付きで、眼下にゴール板と 9x40m、8x14m のターフビジョンが間近に迫りその大迫力に圧倒される。空を見上げると真っ青な空と雲。こんな青空を見るのは 6 月の函館競馬場以来久し振りで、流石「競馬の聖地中山」は空の青さから違うと感激した。サア一戦闘開始です。競馬は筋書きの無いドラマ、難解なパズル。どれ程の兵が挑んでは跳ね返され、涙を流したことか。それでも何十年も

掛けて挑み続ける魅力とは。馬券には個人の気性、人間性が如実に反映されます。先ず驚いたのは上前さんと小松崎理事。上前さんは皆さん想像がつくでしょう。前夜競馬新聞を買いじっくり検討し1~12レース各々3着までに入りそうな馬番と枠番を手製のシートに印刷し用意万全。レースの合間に愛用のカメラを片手にパチリ、パチリ。競馬撮影が目的で馬券は二の次。お金を賭けるのは復興支援のためとか。頭が下がります。もっと驚いたのは小松崎理事。バッグを開けたとたん、読売新聞の予想欄をバンと広げ、競馬新聞を見たって皆目見当がつかないし、今日の目的は競馬場の雰囲気と馬が走っている姿を見たかったからで当たり外れは問題外。少しでも支援になればと。聞くところによれば、集合時間に遅れて迷惑をかける小生等が横浜駅に着いた6時30分には既に東京駅到着、おにぎりを頬張りながら皆を待ったそうで、此れまでのイベントの綿密な下調べを見るに付け、成る程と思い知らされた。村松理事も同じで、1時間おきに目が覚めたと笑っていたが、競馬新聞を買いそびれたため、席に着くなり小生の指南書を片手に真剣に検討を始め、何事も真面目に取り組む姿に彼の人間性を又垣間見た。小嶋理事の皆さんは本当に仲が良さそうで何時もながら感心する。特にご長男はお会いする度に、反抗期が無かったんじゃないかと思える程でご夫婦の人柄が偲ばれる。午前中の4レースが終了、第1レースでいきなりの落馬事故も大事に至らず騎手も次々レースから復帰。ヤレヤレ。第5レースは難解な新馬戦、今の内に昼食をと辺りを見渡しても其の気配無く皆さん新聞と格闘中。仕方なく村松、小松崎理事と昼食へ。途中各々の席へ「昼飯にしませんか」と回るも、会長、早瀬理事は笑顔でハイ、ハイ。然し目は新聞に釘付け。後で聞くと全12レーストライしたとか。此れもお二人の人間性。中途半端はお嫌いでしょうが、「馬券界」は違うんですが。村松理事ときたら、食後いきなり新馬戦まであと7分あるとダッシュ（オイオイお前もカ）。小生は折角だからと3階からパドックを見下ろすも、どの馬もカッコヨク見え4回も機械に「このレースは締め切りました」

と告げられる始末。不慣れな事はするものではないと、眼下の巨大モニターと備え付け極小モニター、「阪神」はフロアのモニターと駆けずり回り、お陰で走っている馬より疲れた。戦い済んで皆さんが「やっぱり競馬場で観ると迫力が違う。今日は本当に楽しかった。復興支援のボランティアもできたし…」然し最後は「疲れた、馬券は難しい」との感想。小嶋理事のご一行は「折角だから途中見物して帰ります」と競馬場で別れ、上前さんも秋葉原で買い物とか。小生が冗談に「メイドカフェですか」と尋ねたら、真顔で「違います！コンピューター関係です」とチョット怒られた。（先生、冗談ですよ、冗談）後で会長、と早瀬理事に話すと二人とも大笑いして即座に「母ちゃんが怖くて出来るはず無い」最後に一言。「皆さんお疲れさま。有難う御座いました」



東京駅 京葉・武蔵野線にて AM7:40 発に乗る。

小松崎さんは東京駅に一番乗りで集合した。中山競馬を楽しみにしていました。

7月18日、JRA土川理事長より、岩手県に対し支援金6億円が贈呈されました。我々の小さな支援も何れ届くことでしょう。「神奈川放友会」は一日も早い復興を祈念しています。来年は「東京競馬場」観戦の予定です、中山へ来られなかった方も是非参加して下さい。又10月のイベントもお楽しみに。（札幌競馬場が今年度より二年掛けてスタンドの改修工事に入るため、来年の開催期間が大幅に修正されそうです。その次は競馬発祥の地、イギリス？）競馬って本当に楽しいですね。それでは皆さん、サヨナラ、サヨナラ、サヨナラ。

みんなの広場

「あんな事も・こんな事も・昔はよかった・楽しかった・現在も楽しい」

医療法人真仁会 久里浜クリニック 二田 勇

昭和 48 年 5 月始め、京急品川駅から快速に乗り江戸（東京板橋）から、横須賀共済病院に御世話になりに来ました。京急品川から横浜までは現在よりは少ないビルに囲まれた風景が広がっていました。横浜を過ぎた頃から、風景が一変しました。トンネル・山・畑・田んぼ・海が遠くに見えました。ところが、横須賀中央駅に着いたら結構ビルがいっぱいで江戸と変わらぬ風景に、「良いところに来たなー、働きやすいかなー」と感激したのを思い出します。

48 年頃は集団検診最盛期で、小学校・中学校・高校・企業と簡易型の装置を持ち込み、胸部写真を撮りに年 2 回程外回りの仕事がありました。高校生を撮りに行くと、体育の先生らしい人が竹刀を持ち、床を鳴らしながら歩いていたのを覚えています。缶詰め工場の検診は、おみやげ付きでした。仕事帰りには、一杯やった様な、無い様な思い出も有ります。

消化器の撮影も最盛期で、ルーチン撮影は枚数が 6~7 枚で午前中だけで、20 人近く撮影していました。精査は 10 人程度でしたが、毎日が忙しい病院だなーという覚えが有ります。当時は、消化器勉強会が、年 2 回、納涼会時期と、忘年会時期にありました。その勉強会は何年か続きましたが、おいしいお酒の席と共に、消化器の先生方との会話がとても有意義だったと思います。職場の放射線科では、花見時期になると、鍋・バーベキュー・焼き鳥など盛りだくさんの料理を用意し、楽しい宴でした。暮れの仕事納めでは、放射線科に、他科の先生方、事務員、多くの人が集まり一年の労を労うべく、食べながら、飲みながら、仕事の話もしながらおおいに盛り上がっていました。この行事も、横の繋がりを大切に、病院スタッフの仲間意識を大事にという側面もあったかと思いますが、有意義で楽しい暮れの行事でした。最近はいわゆる綱紀肅正とやらで寂しい限りと思います。何年ごろか忘れましたが、放射線科有志一同（全員）でお金を積み立てて、年に一回一

泊二日のゴージャスな旅行をしようと話がまとまりました。最初は春の湯河原温泉でした。当日電車の中で飲んで、食べて、旅館に着く前に出来上がっていた者もいたように記憶しています。駅に着き旅館までタクシーで乗り付け、夜の宴までは露天風呂で一汗流し、のどの渴きを我慢してゴージャスな宴会を待ちました。そして宴会の始まりです。芸者は来る、踊り子は来るで、楽しい宴会の始まりです。芸者遊びで一杯、踊り子の逆さ富士を見ながら一杯、大変に楽しい旅行でした。金を使いすぎ、帰りは駅まで歩きでした。幸い帰りの切符は事前に購入していらしたので大丈夫でしたが、帰りの電車は皆無口で、お通夜状態でした。この放射線科の豪華絢爛の旅行は何回か続きましたが、自然消滅となりました。

行きつけの赤チョウチンは、中央駅前の「酔月」です。昭和 48 年から通ってます。通い始めのころはカウンターだけの店で、床は土間で椅子に座っていると体が斜めになり真直ぐになるよう身体で調節しながら飲んでいました。その当時は、1 ドルが 360 円の時代ですから、外人も多くウイスキーのダブルをストレートで飲んでいました。

魚釣りもしました。前技師長の親戚が松輪で漁師さんをやっていたので、その船を利用していました。鰯つりの前の晩、三浦海岸の民宿でしこたま飲んで出かけ、内海から外海に出たとたん、アルコール臭いコマセ撒きが始まりました。釣果は結構有ったように記憶しています。釣りに行くのに、クーラーボックスを持っていかないので、ビニール袋に氷を入れて持ち帰ったと記憶しています。鰯の刺身は晩酌に最高で、晩酌が進み、カミサンに怒られたのを覚えています。酒の話ばかりですみません。でも、今思い出すと、仕事も、遊びも、有意義に楽しんでいた事を思い出します。

ある時、地区技師会の会合の後毎回行きつけの赤提灯で、二田が言い出した事をいくつか上げさせていただきます。最初は乳房装置の線量測定でした。現在の様な立派な装置ばかりではないのを

覚えています。低線量測定器が有り実現しました。CT の線量測定も二田が言い出したそうです。本人は覚えがなく、次の日に当時会長だった横須賀市民病院の柳沢会長から電話があり、「昨日話した事を」と切り出され困りましたが、会長からゴーサインが出て実現しました。CT 専用測定器が三浦市民病院にある事を業者から聞き、測定器を借りて CT 装置の有る施設を業務終了後に集まり、測定に歩きました。CT 装置測定結果は、日本放射線技術学会で、衣笠病院の現在の技師長である松村氏が発表しました。横須賀、三浦地区は狭いので実現出来たと思います。

若い技師に乳房撮影認定技師を取らせたく、横須賀共済病院放射線科医師と相談しながら乳房読影会を立ち上げ、近隣の施設に連絡して月に一度の開催に十数人技師が集まりました。一年近く（もう少し長かったかも？）頑張りました。途中から共済病院の婦人科の医師も参加し、楽しく有意義な勉強会が出来たと思っています。乳房撮影の経験がない技師から、“この白いのは何ですか”などと聞かれると、医師と二人で優しく丁寧に説明をしていました。勉強会開催を続けた結果、婦人科医師を始め、参加技師全員が認定を取れ、放

射線科医師と祝杯を上げました。二田は人の世話はしましたが、自分の世話が出来ず認定を取るのを忘れてしまいました。反省です。在職中に、人の迷惑を顧みずに遣って来た二田の話でした。

退職してからの現在の勤務は、透析クリニックで医療法人真仁会に所属しています。本部は、横須賀小川町に在る横須賀クリニックと、久里浜に在る久里浜クリニック、三浦に在る三浦シーサイドクリニック、逗子に在る逗子桜山クリニック、4ヶ所在るクリニックの久里浜クリニックに所属しています。6階建て、レントゲン室は2階に在り、胸部 X 線写真と、シャント造影を主に仕事としております。胸部 X 線写真は、月に 350 人位、透析終了後の撮影で一日平均午前、午後合わせ、18~20 人で大変暇です。出勤時間は、朝家が出るのが 10:00 で、帰りは透析終了後撮影で 19:30 頃となります。4ヶ所で技師が 3 人です。風邪も引けません。二日酔いも出来ませんが、何とか 3 人で頑張っておいております。

これと言った趣味も無い二田です。原稿依頼を受け大変でした。仕事人として、また、ナンバーの戯言と読んで頂ければ幸いです。

■第 94 回社団法人神奈川県放射線技師会総会(臨時)で年会費改定が決定！

平成 24 年 9 月 7 日（金）、技能文化会館にて表記総会が開催された。「会費値上げ」が主たる議題の総会であった。会長より「会の発展のため苦渋の決断」として、会費値上げに至る経緯が説明された。総会運営委員長より、平成 24 年 8 月現在の会員数 1493 名、会費完納の有権者 1291 名、総会出席有権者は 713 名と報告された。資格審査報告では、有権者の過半数 646 名を満たしており総会の成立が宣言された。なお、議事は神奈川県立汐見台病院の加藤議長により執り行なわれ、採決結果は出席者、委任状、書面表決合わせ、否決 112 名、修正 0 名、賛成 617 名で執行部提案どおり承認された。これにより、平成 25 年度より年会費は 8,000 円となる。詳しくは、会誌の 239 号、240 号を参照されたい。

【編集後記】暑かった夏も台風と共に去りましたが、会員みなさんにはお変わりなくお過ごしでしょうか。神奈川放友会では、会員皆様の声を大切にして、会員皆様とともに会を盛り上げて参りたいと考えています。会へのご意見、ご要望、またニューズレターへの投稿等ございましたら、下記の神奈川放友会編集理事あてにメールでどしどしお寄せください。皆さんからの声をお待ちしています。

参加者募集

会員以外の方も
参加自由です

史跡名所金沢八景 と 八景島を楽しもう

神奈川放友会

金沢八景の称名寺、金沢文庫散策及び八景島パラダイスの水族館見学とシーサイドスパ八景島でリラックス。史跡を訪ね、浜辺を歩き、八景島では子供から大人まで楽しめます。スパでは入浴と食事をします。

注目・・・金沢文庫では「武家の古都 鎌倉」世界遺産登録推進特別展「鎌倉興隆—金沢文庫とその時代」を開催中なので観覧出来ます。(時間の関係でガイドはつきません)

日時 平成24年10月28日(日) AM8:30~PM3:30

場所 称名寺、金沢文庫、八景島シーパラダイス、シーサイドスパ八景島

集合 京浜急行 金沢文庫駅改札口前 AM8:30

費用 大人7000円(65才以上6000円) 小、中学生4000円 (集合場所までと帰りの交通費は含みません)

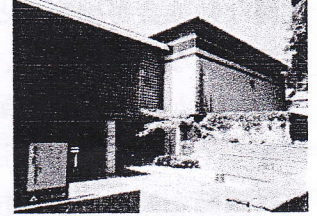
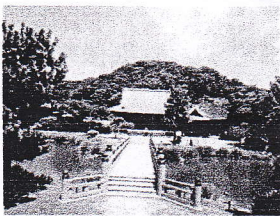
注: 65才以上の方について

- ① 金沢文庫及びシーパラダイスの水族館入館チケットが安くなるので生年月日証明できる物を持参して下さい(濱ともカード等でも可)。
- ② スパ入浴の可否により参加費が変わることはありません。

その他 小雨決行 ・ 昼食は13:30頃ですので、あらかじめ空腹対策をしておいて下さい。

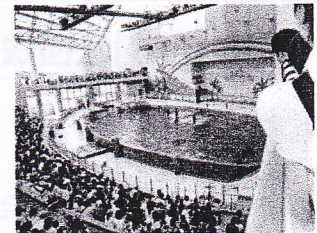
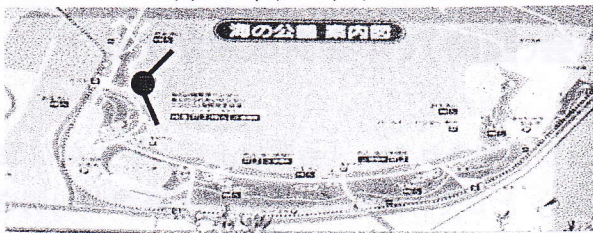
行程 金沢文庫駅前出発 (AM 8:30) (すべて徒歩)

称名寺 → 称名晩鐘浮世絵(他7点) → 金沢文庫

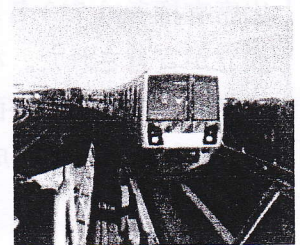
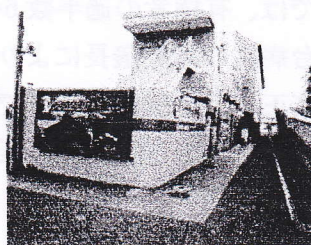
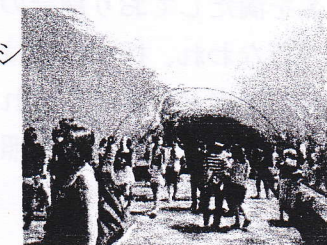


海の公園 (1)

→ アクアスタジアム → アクアミュージアム



→ドルフィンファンタジー → シーサイドスパ八景島 → シーサイドライン八景島駅 (解散地)



海の公園 (2) 八景島站 (たん) からのパノラマ (展望場所からの遠景)



◇参加御希望の方は「神奈川放友会」まで連絡してください。TEL 045-681-7573